

北社会ニュース #23号

2006-5-17

発行者：鈴木壮夫

本日の第242回北社会は先月既報の講師も場所も変わりました。世話人一同、ベストは尽くしたと思っています。「代打出場」のメグロはその道ではプロです。品川プリンスを紹介してくれたのも、桜井良之助君の代打を昨朝、千歳空港で引き受けてくれたのも同期生（11回・ピンピン会）の日黒克宏君です。名門（？）三条中学の出身ですが、二高時代、校長宅に短期間宿泊を義務づけられたという破天荒でユニークな存在はピンピン会の誇りでもあります。桜井君はドクターストップですが今週中には退院の予定とのこと、何が一番苦しいか「肺に欠陥があるのにタバコが吸いたいこと」だそうです。喫煙者の方々肝に銘じて下さい。

（1）本日、第242回北社会

右の写真は今年3月サンディエゴペトコ・パーク球場で同年齢の王監督（右）に目黒君（左）が使用ボールの握り方をアドバイスしているところだそうです。

目黒君は(株)ジェイ・スポーツブロードキャスティングのシニアアドバイザーで3月開催のWBC中継のため30数人のスタッフを引き連れ渡米し、中継して、



「王ジャパン世界一！」に立ち合えた幸せ者です。ザックバランな北社会にしましょう。

（2）来月以降の北社会講演予定（会場はエドモンドホテルです）

6月19日（月）天江喜七郎氏（高14回）外務省初の関西担当大使

「昨今の外交について思うこと」

7月19日（水）和賀井敏夫氏（中42回）学士院賞ご受賞記念会

♥6月と7月の両月は青山史朗先輩のご尽力によるものです♥

8月16日（水）桜井良之助氏（高11回）東京都都議会議員

「2016年オリンピック招致」

9月21日（木）渋谷正史氏（高15回）東京大学医科学研究所・教授

日本癌学会「吉田富三賞」ご受賞記念

10月 休会・ 18日（水）東京同窓会（ホテルオークラ）にご参加下さい。

尚、高7回・菊地勝夫先輩のご尽力にて村井宮城県知事殿も講演に前向きに対応いただいております。ご都合次第では月に2回、北社会を開催することもあります。お楽しみに！

※推薦図書※ 天江喜七郎著 「息子への手紙」学生社、1991年刊、1400円

来月の講師、天江さんが1988年より90年まで、韓国駐在時、日本に残した高校生の息子に書き送った37通の手紙です。愛情溢れる厳格な父は敗戦前の家庭を彷彿させるが率直な文章です。「日帝36年」の歴史的事実を知らぬ人は是非読んで、来月ご参加を！

(3) 対一高野球定期戦

5月11日(木)午後3時頃、私は一番町の金港堂書店にて地方出版図書を探していました。突然、シャーシャーとかキンキンキンという音と喚声が耳に入ってきて、外に出てみました。高下駄を履いた約300人の一高生が隊列を整えるべく、一番町の石畳を走っていて、耳慣れない音を立てていました。当時から懐かしい羽織袴姿の応援団は先頭の一人のみでほとんどの生徒はエンジ色の上下トレーニング姿、約十人は女子高の制服を着て、仮装していた。プラカードを約30本持って氣勢を挙げ、翌々日開催の野球定期戦の勝利を祈願していた。前月号にも書きましたが、私が二高生になって、丁度50年、当時は勿論制服・制帽姿だったから地味だったかもしれないが凱進行進はそれなりの統制と美しさがあったように思う。20数人の吹奏楽部が先頭に立ち、校旗が続き、一千人の生徒が川内まで歩いた。私はトランペットを吹いていた。それに比べ、行き合った一高の応援団には極端な表現かもしれないが「ホームレス」のグループを眺めているような雑然さしか感じられなかった。そして、母親(?)の集団が取り囲みながら、共に歩き、カメラ片手に息子達(?)を撮影していた。「育ち盛りの日本・昭和30年代」と昨今、称される私の50年前とは大きく変わっていた。私は三越に向い、応援団と別れた。所用は早く済ませることができ、一時間の余裕が生まれ、急に二高に行ってみたくなり、広瀬通に出て、ぶらぶらと歩いていると前方に先程の応援団の末尾が見えてきた。追い越して、二高の正門に近付いたところ、TVカメラクルーや数十人が応援団を待ち構えているようだった。昨年迄は正門前に大きな立て看板があり、対一高戦まで「何日」と人々の眼を引いていたが、最後の応援団員が今春卒業したせいかな、「後2日」という立て看板は無かった。人込みをかきわけ、校内に入り、運動場を見渡せる掲揚台に到着。ここは50年前とほぼ同じだった。変わっていたのは硬式野球部とサッカー部の部員数。当時はそれぞれ十数人だったのに、40人程度がそれぞれ練習していた。それと、ラグビーと陸上競技が見当らず、練習場は他の場所なのだろうか・・・。と思い巡らせていると運動着姿の生徒が自転車で一高が来ているから正門前に集まってくれとの伝言をサッカー部に告げていた。私も正門前に行った。一高応援団は伸ノ瀬橋を渡ってきて反対側の道路を行進、交差点でUターン、正門前を通過して行った。エールの交換も無い。居合わせた人に聞いたところ、昨年までは両校とも応援団を繰り出し、西公園辺りでエール交換をしていた。二高が今年はやメタため、一高が押し寄せた(?)ののだろうとのこと。パートナーシップも消え失せていくのかと残念に思った。

北陵ピンピン会の仲間、そして青葉繁れる仙台故郷は有り難たし。



二高戦 一高がサヨナラ

別学同士 最後の戦い 応援合戦にも熱

戦後110日を迎える仙 城野区のフルキャストス 勝ち、2年ぶり26度目
台一高、仙台二高の野球 タジテム宮城であり、仙 の優勝を果たした。通算
定期戦が13日、仙台市宮 台一が7-6でサヨナラ 成績は仙台一の60勝66敗

球場には、肌寒い天候にもかかわらず、両校の生徒やOB、ファンの市民ら約3500人の観客が詰めかけ、熱い声援を送った。

仙台二高は、来年度に男女共学化が予定されている。男子生徒だけの別学同士による最後の応援合戦。OBらを含めて応援歌の応酬が繰り広げられた。

仙台二高 1002000310240
仙台一高 1002000310240
仙台二高 1002000310240
仙台一高 1002000310240

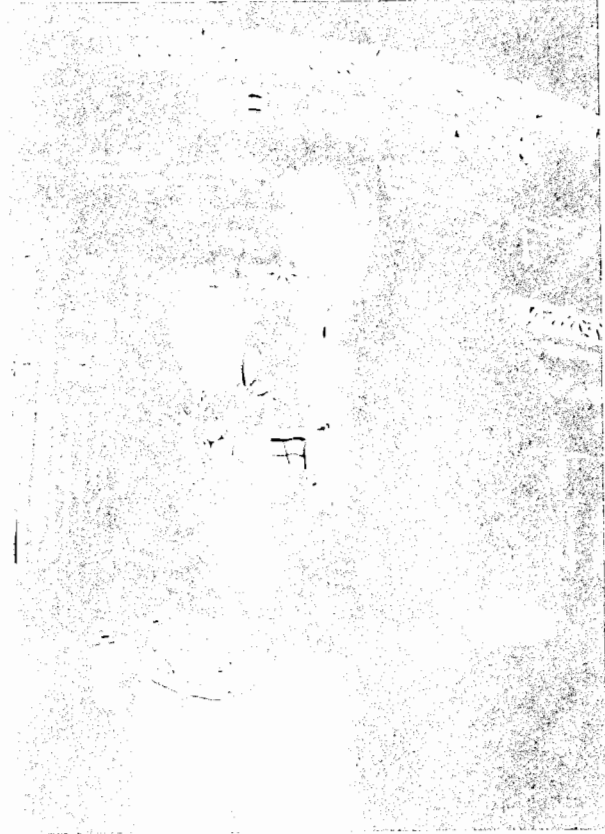
WBC 同行取材・中継物語

2006-5-17

日黒克宏 (高11回)

話題の展開順序 (予定)

- (1) プロ野球・西武ライオンズでの役割
- (2) ㈱ジエイ・スポーツ ブロード
キャスティングとはどんな会社
そしてシニアアドバイザーとは
- (3) WBCでの仕事と役割
- (4) 中継はどの試合から、出発日は
- (5) San Diego
PETCO PARKは
- (6) メキシコ 2-1 アメリカの試合結果を聞いた時は
- (7) 準決勝 日本 6-0 韓国
- (8) 決勝 日本 10-6 キューバ
- (9) 王監督・イチロー・松坂・上原・宮本・・・そして不参加松井
- (10) アメリカ人の野球熱と取材中に感銘を受け日本の皆さんに伝えたいこと



「北辰斜めに」そして「凱歌」

11 回期生の同期情報紙「ピンピン・第6号」に表題の原稿が届いた。

二人で桜の木の下に莫蔭を敷いて、「桜の花には日本酒が良く似合う」などと言いながら、酒を酌み交わした。飲むほどに酔うほどに歌が飛び出した。いつのまにか夕陽は西に輝いていた。「とっておきの一曲を歌いますから、終わりましょう」と私は言った。

暁かけて匂ふなる
桜の花に武士が
ひそかに秘めし情こそ
我が若人の精神なれ
五城楼春の月
清き哉その光

歌い終わると、Nさんが「それは替え歌か」と言った。「仙台二高の『凱歌』です」
無然として私が答えた。今度はNさんが歌いだした。

北辰斜めにさすところ
大えいの水洋々乎
春花かをる神州の
正気はこもる白鶴城
芳英とはにくちせねば
歴史もふりぬ四百年

私は驚いた。テンポは速いが仙台二高の『凱歌』と全く同じ曲であった。「なんという歌ですか」と聞くと、Nさんは「旧制第七高等学校造士館の寮歌『北辰斜めに』作詞 築田勝三郎、作曲 須川政太郎」と答えた。知らなかった、『凱歌』の本歌は『北辰斜めに』だった。それから、二人は往年の二高生と七高生にもどって何度も何度もその曲を歌った。Nさんは「廃校の旧制第七高等学校の『北辰斜めに』が『凱歌』となって仙台二高で歌われるなんて奇縁だね。感無量だね。それにしても『凱歌』の歌詞はいいなあ。」といった。二人は仙台の桜と鹿児島島の桜を思い出していた。

「北辰斜めに」は大正4年、1915年の発表。このメロディーが鹿児島から仙台に伝わったのは何時の頃だろうか。また、暁かけて匂ふなる・・・と作詞したのは先輩なのだろうか。母校には「この凱歌が歌われたとした時期について」問い合わせ中。知りたいですね。